

## 「施策」総括票

施策展開	5-(4)-ア	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
施策	①外国語教育、海外交流・留学等の充実	365頁
対応する 主な課題	<p>○本県は国際交流や協力を通じ、多角的なネットワークをもつ国際交流拠点を目指しており、次代を担う子どもたちには高い国際性と専門性が求められている。</p> <p>○国際的視野を持ち、国際社会において主体的に行動できる人材を育成するためには、外国語教育の充実、国際理解教育の推進及び留学や外国人との交流などを通じた実践的なコミュニケーション能力の向上等を図る必要がある。</p>	
関係部等	知事公室、福祉保健部、教育庁	

### I 主な取組の推進状況(Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
	主な取組	決算額	推進状況	活動概要
<b>○外国語に親しむ機会の創出及び国際理解教育の推進</b>				
1	外国青年招致事業	215,588	順調	○全県立高校へ外国語指導助手49名を配置し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図った。(1)
2	中学生英語キャンプ	1,415	順調	○英語学習への意欲向上を図るため、中学生を対象とした英語宿泊体験学習を実施し、180名の生徒が参加した。(2)
3	県内体験交流推進(英語立県沖縄推進戦略事業)	53	順調	○(財)沖縄県国際交流・人材育成財団と連携し、県内小中校や特別支援学校へ中国、韓国、ペルー、米国出身の国際交流員を13回派遣し、異文化の紹介や、沖縄移民に関する授業を行なった。(4)
4	国際交流員による異文化理解促進	—	順調	

様式2(施策)

○実用的な英語能力の育成				
5	英検合格推進モデル校の設置(英語立県沖縄推進戦略事業)	4,687	順調	○英検合格者増加に向けて、県立高校21校、約5千名の高校2年生を対象に英語能力判定テストを実施し、英語力の把握や英語指導への方向性を示した。(5)  ○高校生を対象に英語キャンプを実施し、68人の生徒が参加した。(7)  ○中学、高等学校の英語担当者(263人)が合同研修を実施した。(8)
6	小中高大が連携した英語教育研究(英語立県沖縄推進戦略事業)	231	順調	
7	高校生イングリッシュキャンプ(マスターイングリッシュ推進事業)	175	順調	
8	中学・高校英語担当合同研修(マスターイングリッシュ推進事業)	247	順調	
○留学派遣及び海外教育機関等との交流				
9	国際性に富む人材育成留学事業	112,973	順調	○高校生65名を1年間、社会人14名を6ヶ月から2年間、米国、欧州、アジア諸国へ派遣した。(9)
10	アメリカ高等教育体験研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	32,933	順調	
11	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	12,106	順調	○アメリカの州立大学へ高校生50名を派遣し、大学生活を体験させた。また、引率教諭5名も英語教授法等の授業を受講した。(10)
12	中国教育交流研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	6,321	順調	
13	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト	2,183	順調	○アジア各国・県内外から54名の高校生を沖縄に招へいし、平成24年8月の20日間、環境問題をテーマとしたプログラムを実施した。(16)
14	国際文化交流派遣(沖縄県高校生文化交流派遣事業)	1,416	順調	
15	芸術文化国際交流(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	13,150	順調	○県内の若者及び海外県系人子弟(計30名)が平成24年7月の約1ヶ月間、沖縄の文化、歴史、自然等を学びながら交流し、県内の学生6名を平成24年7月の約2週間、ブラジル沖縄県人会宅に派遣した。(18)
16	アジアユース人材育成プログラム	58,844	順調	
17	海外交流拠点形成(英語立県沖縄推進戦略事業)	1,235	順調	○国際青年育成交流1名、東南アジア青年の船1名、世界青年の船2名、青年社会活動コアリーダー育成プログラム1名の本県の青少年計5名が諸外国の青少年と交流した。(19)
18	次世代ウチナーネットワーク育成事業(一部)	13,360	順調	
19	内閣府青年国際交流事業派遣	120	順調	

様式2(施策)

II 成果指標の達成状況(Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	中高生の英検取得者数(年間)		3級:2,525人 2級:537人 (22年)	3級:3,787人 2級:904人 (24年)	3級:3,000人 2級:650人	3級:1,262人 2級:367人	—
	状況説明	平成24年度は英語能力判定テストを実施した結果、生徒の英語力を把握することにより確実性の高い英検受験につながり、平成24年度の中高生の英検取得者数は、3級が1,262人増、2級が367人増となり、平成28年度の目標値を上回った。平成25年度は、新たに20校の高校2年生を対象に英語能力判定テストを実施し、英検取得者数の増を図る。					
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	英検準1級取得者数(高校生)		50人 (23年)	33人 (24年)	75人	△17人	—
	状況説明	平成24年度は高校2年生を対象に英語能力判定テストを実施し、高校卒業程度の英語力が身につけている英検2級取得者数の増加につながった。一方、英検準1級取得者数は17人減となったため、英検2級合格者に英検準1級の受験を促すとともに、引き続き外国語指導助手の配置、英語能力判定テストの実施等を行い、目標達成に向けて取り組む。					
3	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	海外留学・交流派遣数(累計)		124人 (23年)	393人 (24年)	1,494人	269人	—
	状況説明	平成24年度は、高校生や社会人をアメリカ、欧州、アジア諸国へ派遣した。国際性に富む人材育成留学事業において、募集人数を上回る応募があったため、平成25年度は派遣人数を拡大して目標達成に取り組んでいく。					

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
学校訪問等授業回数	13校 (24年)	15校 (25年)	—	↗	—
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(累計)	10人 (22年)	10人 (23年)	73人 (24年)	↗	—
アジアユース人材育成プログラム参加人数(県内参加者)	11人 (23年)	14人 (24年)	—	↗	—

### Ⅲ 内部要因の分析(Check)

#### ○外国語に親しむ機会の創出及び国際理解教育の推進

- ・平成25年度より学年ごとに順次導入される「新学習指導要領」に基づき、英語の授業は英語で行うことを基本とするため、学校行事や英語クラブ等において、外国語指導助手の活用を検討する必要がある。
- ・外国人と触れ合う機会の少ない離島、へき地への国際交流員の学校訪問及び講義の実施が重要であるが、予算上の問題等から、離島、へき地へ訪問する回数が減少傾向にある。

#### ○実用的な英語能力の育成

- ・平成24年度の中高生の英検取得者数が増加したことについて、英語能力判定テストがどの程度英検の受験率や合格率に影響を与えたのかを検証する必要がある。
- ・中学・高校英語担当の連携は、系統的な学習指導を可能にするために重要であるが、中学校と高等学校はそれぞれの校務分掌処理に追われ、互いの指導方法や課題等について、情報共有の時間が確保できていない。

#### ○留学派遣及び海外教育機関等との交流

- ・交流・派遣事業については、新規事業であったことから、事業実施にあたり委託業者の選定手続き等に時間を要し、学校への十分な周知期間を確保することができなかった。
- ・国際的視野と国際感覚を持つ青少年の育成が求められているため、内閣府青年国際交流事業の周知を図る必要がある。

### Ⅳ 外部環境の分析(Check)

#### ○外国語に親しむ機会の創出及び国際理解教育の推進

- ・国際交流や国際貢献を積極的に行っていく上で、コミュニケーションの手段としての外国語の重要性はますます高まっている。
- ・小学校外国語活動が必修になったため、小学生においても英語に親しむ場を提供していく必要がある。

#### ○留学派遣及び海外教育機関等との交流

- ・平成24年度は、書道分野における交流研修において、中国の上海へ高校生を派遣したが、その後、大気汚染等の環境問題、鳥インフルエンザ等の諸問題が発生している。

## V 施策の推進戦略案(Action)

### ○外国語に親しむ機会の創出及び国際理解教育の推進

- ・外国語指導助手コーディネーター連絡協議会や指導力等向上研修会において情報や指導方法等の共有を図る。また、外国語指導助手の効果的な活用のため、英語スピーチコンテストや出身国の文化紹介を行う。
- ・離島等遠隔地への訪問は、実施主体である(財)沖縄県国際交流・人材育成財団に予算措置等の検討を行うよう働きかけるほか、県内の市町村教育委員会等への本事業の広報を強化する。
- ・授業における指導技術の向上を図り、英語教員としての資質を高めていくとともに、外国語指導助手を全県立高等学校へ配置し、生徒のコミュニケーション能力向上や異文化理解を図る。
- ・中学生英語キャンプを小中English Summer Campと改め、小学生も対象とするなど、「早期外国語教育」を積極的に推進し、発達段階に応じた外国語教育の充実を図る。

### ○実用的な英語能力の育成

- ・英語能力判定テストを実施した学校における英検の受験率及び合格率を検証するとともに、テスト結果を踏まえたその後の英語指導のあり方等について研究を進める。また、検証・研究結果については、本島、宮古、八重山地区でそれぞれ研究会を実施して広く周知を図る。
- ・地域の中学校、高等学校において英語担当者の連携を強化するため、相互授業参観の場の設定を行うとともに指導方法等について意見交換できる機会を設ける。

### ○留学派遣及び海外教育機関等との交流

- ・交流・派遣事業については、学校への周知を含め、十分な事業期間が確保できるよう事業の早期着手に努める。
- ・本県青年の内閣府青年国際交流事業への参加の促進を図るため、短大、大学、専修学校等を通じて学生への周知を図るほか、テレビやラジオなどの様々な媒体の活用や各企業団体等への周知を行うなど広域的な広報活動を実施する。
- ・派遣先国についてわが国との外交情勢を見極め、より安全に交流を実施できる国を選定する。芸術文化国際交流プログラムにおいて、音楽、美術・工芸、郷土芸能分野は現在シンガポールでの実施を検討中であり、書道分野は当初予定していた上海から台湾への変更を予定している。